

青少年くらし

家庭版

発行 倉敷市教育委員会
編集 生涯学習課
☎ 426-3845

1月



コロナ時代の「教育の在り方」

今回は、倉敷市児島で小児科医院を開業され、地域医療に貢献されている難波弘志 院長にお話を伺いました。先生は、倉敷市教育委員会の教育委員としても活躍され、医療にも教育にも熱い思いをもって取り組んでおられます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について

平成の時代には、数多くの自然災害による被害がありました。令和の時代には、東南海大地震は避けられないと思っていますが、その前に新型コロナウィルス感染症が、世界中に脅威を与えています。

新型コロナウイルス感染症の免疫をもっている人はまだ少ないため、感染が広がりやすいのは当然ですが、インフルエンザウィルスと同等かそれ以上の感染力を感じています。テレビ・新聞などで専門家も含めていろいろな意見がありますが、重症化率、致死率はSARSやMARSよりやや低そうかなと思っています。しかしながら、新



型コロナウィルス感染症は無症状の感染者も多く、また、発症約二日前から、他の人への感染力があるとのデータもあり、感染の収束には時間がかかると感じています。現在、ワクチンの治験が進められています。今後全ての人に接種できる安全で有効なワクチンの開発が待たれます。

教育委員会会議に出席して

平成三十一年四月より、倉敷市教育委員を拝命し、会議に出席しています。医療に携わる者の視点から意見を述べようように努めているところです。

先日、全国学力テストの問題を解く機会がありました。その中の小学校六年生国語長文読解問題はなかなか難し

く、時間がかかる本文設問でした。『AI対教科書が読めない子どもたち』（新井紀子著）を読みました。その中では、中高生や大学生の基礎的読解力が低下していること、その要因として生活習慣や学習習慣、読書習慣など様々なものがあり、どのような習慣や学習が読解力を育てるか逆に損なうか、調査結果が書かれていました。

このことから、改めて読書の重要性を実感します。読書の重要性については後ほど触れますが、現在、子どもたちにとって魅力的なゲームなどいろいろあります。ゲーム、スマホ、YouTubeなどで遊ぶのは、一日一時間以内にして、読書をする時間をあらゆる機会を通して勧めたいです。

学校の勉強は役に立つ

学校で学んだことが社会に出てからはあまり役に立たないという意見を時々聞きます。数学の時間に、方程式を用いてよく問題を解きましたが、社会に出てからはその概念を使う機会は確かにありません。しかし、勉強は知識や教養を身に付けることや、物事を深く考える習慣を身に付けるのに役立ちます。社会人になって、どのような職業に就いても、毎日学び続ける必要

があります。例えば、数学の勉強によって身に付けることができる論理力や思考力は、人生を生きていく上で役に立ちます。国語では、社会人になって大量の情報の中から大切なポイントを抽出する力や文章の論理構造を理解して要点をつかむ力を身に付けることができます。今年度中に、小・中学校の全生徒を対象にタブレットノートパソコンが貸与される予定です。有効に活用し、学習の効果があがることを期待しています。

最善を尽くすことが大切

子どもたちには、どのような状況場面においても、自分の力で考え、判断して行動する人間に成長して欲しいと思います。どのような状況においても、自分として最善を尽くしてい





れば、結果がどうであっても、振り返った時に後悔の念は少ないと思います。「最善を尽くす」は、私の座右の銘です。

子どもは成長していきます。それがよい方向に向くように、よい成長であるように、よい環境を整えてあげて、そしてさらに指導・助言を保護者の方々にお願したいと思えます。

非認知能力について

中でも、大切な要素は、日本の教育において重視されてきた自己コントロール力と言われています。また、非認知能力は目まぐるしく変化する社会情勢に対応する力として重要視されており、子どもたちの非認知能力を育て、子どもたちが幅広い事柄に興味をもち、目標に向かって粘り強く取り組む姿勢を身に付けることは大切なことです。

今後への思いと願い

①これまでの経験から

子どもたちの表情から、ある程度家庭の家族関係が想像できます。子どもに厳しく指導することは大切ですが、叱るだけでは物事は解決せず、将来につながると思います。子育てはほめて伸ばすのが理想的だと言われますが、能力、才能やテスト、成績表の結果だけをほめるのではなく、努力、頑張りが、具体的な行動をほめることが大切だと思っています。

次に、「本を読むことの大切さ」についても一度述べます。学校の図書館図書室にはたくさん本があり、良き指南者である司

書の先生がおられます。私は、小学校四年生の時、図書館図書室の先生に勧められて『シートン動物記』を全巻読みました。今まで知らなかった世界にすごく興味がわいたことを覚えています。また、小学校六年生の時、両親が買ってくれた『世界の歴史』全三十六巻を読破すると、達成感が生まれました。読書は、知らなかった世界に目を開かせてくれて、心を豊かにしてくれます。

子どもたちにはしっかりと読書をさせたいものです。

②今後への思い



また、家庭では新型コロナウイルス感染症の収束に向かって、どのように過ごすことが大切でしょうか。例えば、親子一対一の時間を作り、一緒に物事に向き合い、きちんとした情報を子どもに伝え話し合うなど、新しいルーティン・日常を構築してもらいたいと思います。子どもたちは、二一〇〇年を目指して生きていきます。子どもたちを見守る環境の重要性を強く感じています。

コロナ後の世界で、どのような意識をもって生きていくのが私たちに問われます。また今後、強毒性新型コロナウイルスの出現も含めて、新興感染症の発生も危惧されます。さらに、東南海大地震も三十年以内に七〇%の確率で起こりうると報道されています。

子どもたちには、どのような状況下においても、冷静に判断して行動できる人になってほしいと思います。(おわり)

「冬」 紙・布 (令和元年度) 倉敷市立倉敷東中学校 2年 原田 姫果 さん
マフラーは布を使って立体的にし、温もりを出しました。また、背景はグラデーション心地よい冬を表現しました。

次に、「本を読むことの大切さ」についても一度述べます。学校の図書館図書室にはたくさん本があり、良き指南者である司

